

正岡さんと

親睦旅行

三谷隆彦

今年の親睦旅行は十一月五・六日兵庫県湯村温泉へ行つた。男十四人、女十一人参加し、まづ岡山県大聖寺で住職から、お金が沢山入る「福の神」の講話を聴き、精進料理を頂いた。武蔵の里はNHKテレビの影響か観光客で賑わっていた。映画「夢千代日記」の舞台である湯村温泉は湯煙が立ちのぼっていた。銅でできた何十人かの手形が並んでいるが、吉永小百合の手がひととき光っている。私も彼女の手に合わせた。暖かい。親指の付け根がふくらんでいて、指は私のより一節短い。私どもの泊まった朝野家は大名気分になる高級温泉旅館であった。日本の香住海岸で洞窟やインディアンの横顔に似た奇岩を遊覧船から眺めた。出石町には江戸時代に時を知らせた櫓が残っている。生野銀山では採掘の激しい労働の模様を再現している。

今回の旅に正岡光雄氏が参加した。私は大変不安であったが、盲学校で元同僚の小澤幸次郎と小島真子の両氏が案内した。旅に出ると、音・臭いなどで環境の変化を感じ、米国へ二回、西欧へも二回旅行したそうである。私は初めて彼と酒を飲み、風呂や便所へも手を引いた。何より

ボルポトの傷跡

カンボジア紀行

陽がとつぷり暮れたシエムリアップの空港前で、現地ガイドのホアンさんがほっとした様子で迎えてくれた。

機中で、入国申請用紙をもらわなかったばかりに、空港の警察官に5ドルもふっかけられてひと悶着をおこし、入国手続きが遅れたからである。そういえば、ガイドブックには、安い給料の警察官は賄賂を要求するから、気をつけるようにとあった。「私のひと月の給料では一泊もできません」とホアンさん

も彼とお話ができて、誠実な人格に触れたのがこれまでの旅行にない大きな収穫であった。「来年も行きましょう」と握手してバスを降りた。

今回の旅でもう一つの特徴は円熟したバスガイド石井千世子さんであった。観光案内に加えて余談が入った。その一つ。土佐人は言葉が荒っぽい。よそでは、お魚・お酒と上品に「お」を付けなさいと説明して客を旅館へ案内し、夕食も終わって女中が布団を敷くと、高知からの淑女が言うには「私は、おとこがかわつたら寝れんがやき」

彼女の家を貧しい農家だったためボルポトに殺された親族はいなかったものの、叔母は年長の男性と強制的に結婚させられ泣く泣く暮らしたが、今は睦まじいという。しかし夫の父は役人、母は教師だったために殺され、兄弟8人も殺戮を免れたのは3人だけ、夫はボルポトに対する融和政策をいまだに納得していないという。

シエムリアップから車で30分ぐらいのトンレサップ湖が今夜から泊まるホテルを説明してくれた。なんだか申し訳ない気がして、到着早々、カンボジアの実情に触れた思いだった。やがてその理由を痛感した。

翌日、ガジュマルの樹が遺跡のみこむようなタブロムへの道沿いに、民族楽器を奏でる一団がいた。「ボルポトに脚を切られ、目をくり抜かれた人たちです」とホアンさんがいう。「ほかの国は外国と戦争をしたが、私の国は同じ国の人が人々を殺しました」嘆くホアンさんの言葉が痛切に響いた。妻はドル紙幣を粗末な箱に入れた。私は余りの悲惨さに人々を正視できなかつた。

次の日にみたアンコールワットの第一回廊には、ボルポトの攻撃が残した弾痕があった。ホアンさんはここに難を逃れ、息をひそめて数日を過ごした恐怖を未だに覚えているという。内戦がもう2、3か月続いていたら、恐らく餓死していたといい、栄養失調

奥津温泉ほろ酔い旅

田所昌澄

小筑紫無線会の親睦旅行で奥津温泉に行った。この会は閉校となった小筑紫分校に勤務したことのある者が、その思い出を語るもので、退職者から現役まで勤務年代の違いを超えて集まっている。

今回の旅行には9名(高退教員は3名)が参加した。宿毛を朝6時に出発したレンタカーに南国インターで合流全員揃えばたちまちビールが配られ例年通りのほろ酔い旅となる。朝から飲む非日常性に旅の楽しみがある。車窓の風景には目もくれずビールと笑い話で盛り上がるが退職者同士はお互いの老化の具合を確認する時でもある。

現職のものから管理体制の締め付けがひしひしと感ぜられる職場の現状を聞けば、早く退職できてよかったなと思ってしまう。休憩の度にビールの空き缶をリサイクルしながら中国山地へ。

途中で特別史跡「閑谷学校」に立ち寄った。備前藩主池田光政が創設した庶民教育の殿堂で備前焼の屋根瓦が美しく周囲は中国の唐様をまねたかまぼこ型の石塀で囲まれており、儒学の殿堂にふさわしい。



に住む人々の生活は、とくにひどかった。ヤシの葉で覆っただけの家屋は、雨期で水位が上がると川上に運んで移り住み、川の汚染ひどくなる乾期は、伝染病を恐れて川を下るといふ。火葬にするお金がないため、いまだに水葬や鳥葬があるという。

ボルポトの殺戮で国土が荒廃し、多くの人命と民族の知性を失ったカンボジアは、復興への道をあえぎながら歩んでいるように見える。それを支えてゆくのは、ホアンさんのような楽天的で、優しくて、たくましく生きるカンボジアの人々であり、小学校でみた底抜けに明るい子どもたちだろ(南)

奥津温泉は山奥のひっそりとした集落で、吉井川のほとりに10軒ほどの宿が肩を寄せ合うように集まっている。

映画「秋津温泉」で広く知られるようになったが歴史は古く、津山藩主が湯室を住民が使用することを禁止して独占したといわれる「鍵湯」が宿泊した「奥津荘」の男湯であるという。川床を囲む半地下室のような感じの湯室は狭く7、8人も入れれば満員となるが、源泉100%のかけ流し湯は無色、無臭で肌に滑らかで気持ちがいい。

温泉で酔いを醒まして宴会となる。

終われば二次会に繰り出すのがいつものパターンだが、あいにくとそのような場所ではない。部屋に集まり餃子を並べて夜が更けていく。窓を開けると吉井川のせせらぎが雨音のように聞こえる。

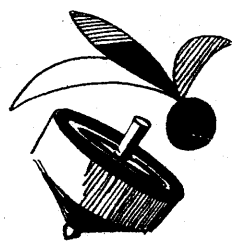
昨年の旅は城崎温泉だった。外湯巡りが有名な温泉だが、我々は宿の下駄をカラコロと鳴らしながら外湯には行かず居酒屋巡りをしたことを昨日のことのように思い出した。

翌朝吉井川の川床に作られた石造りの洗濯場を舞台にあってやかな着物の踊り子が並び「足踏洗濯」を披露し、取り巻く温泉客が温泉街らしい賑わいを見せていた。

飲みくたびれて帰ってきた。「旅のしおり」を書くつもりが「宴会のしおり」になってしまったがこれでいいのだ。我々の旅は長時間遠距離移動式大宴会なのだ。

旅の終わりは旅の始まり。さて来年はどこへ行こうか

(どこで飲もうか)



国際戦犯民衆法廷

執行委員長 橋元 勝一
新年おめでとうの言葉。
改めて憲法・教育基本法を守り
生かす民権的な学校づくりを進め
ていく決意を新たにしたいと思
います。

昨年十一月九日、小泉政権は
イラクへの自衛隊派兵基本計画案
を強行した。自国の世界の
誇りを尊重する国際法も
また日本を代表する憲法もあ
げず、「自国の利益」を優先して
「国際法」の一部を引用して
派兵を強行した。だが「われ
らは全世界の国民が、ひとつ
恐怖と不安から免かれ、平和の
うちに生活する権利を有する
ことを確認する」と世界平和を前提と
して述べている。無視してしま
う。二十一世紀を平和と文化の世
紀として地球の人類の課題を
解決し、平和と文化の世
紀を築くことが必要である。

世界平和の危機から「平和
的」に見えるかもしれませんが、憲
法・教育基本法改悪の動きは連綿
と進められている。県内の高
校再編・統廃合・高校入試制度「改
革」「新しい人権保障制度の導入
など」連綿の動きも「競争と効率
」管理統制の強化が二層強めら
れている。

十一月五日の臨時定期教育委員
会で、丸の内高校の音楽科を残す
修正案をめぐり、再編・統廃合案
が採決されました。併せて高校入
試制度も現行の推薦・一次二次・
特別募集制度を廃止して、前期・
後期・再募集制の導入を検討して
います。前期は中学校長の推薦で
はなく本人が希望すれば受験でき
る制度へ、すでに先行している他
県では二〇倍以上の競争率となり

相撲シニ知識 (五十六)

番付(一)

林 勤

番付は力士、年寄り(親方)、
行司、呼出し他の一覧表である。
相撲協会全員約八五〇人(平成
十五年十一月場所現在)につい
て、「力士は階級と出身地、年寄
りは役職名、行司等は職種」が
一枚の番付表に網羅されている。
番付は、各場所千秋楽の三日
後に審判委員全員によって編成
され、次の場所初日の十三日前
に発表される。それまでは部外
秘である。但し、横綱、大関、

受験競争に力を入れた拍車をかけてい
る実態が報告されています。

賞金問題では、昨年に繰りマイ
ナス動向に加え、共済掛金の総
報酬制等で、十六万円の賞金前
減をされました。不況が続く中
で、「悪魔のサインクル」を断り切
る闘いが求められています。一方
で教職員も多忙化、超過労働で
現職死が深刻化する中、〇四年
度に勤務実態調査を実施するこ
とが決定しました。また、ボーナス
で実施されている「成績率支給」
についても、根本的な解決ではあ
りませんが本人への通知のあり方
を事務局で検討するとの回答を
得ました。

一月十四日は、県教委主催
で五つの教職員組合が参加しての
「子どもの学力向上」についてをテ
ーマにした教育フォーラムが追手
前高校芸術ホールでおこなわれま
す。県民に積極的な学力問題の本
質を訴えていく場としての位置づけ
ています。

今年はおつなぐ平和と教育を
巡る問題と激動の年となります。
分庁活動を基軸にした高教組運動
を旺盛に進めていきます。

十両に昇進した力士は、昇進決
定の日に発表される。

それは、①横綱、大関は協会
を代表する力士であるので、前
頭から小結へ、小結から関脇へ
昇進した場合は格段の違いが
ある。特に横綱は、協会からの
横綱授与、綱打ち(横綱作り)、
土俵入りのけいこ...等、大変
である。②十両に昇進すると生
活様式が一変(幕下以下は兄弟
子の付け人(身の回りの世話を
する)になるが、十両に昇進す
ると逆に付け人がつく。羽織、
袴の着用とまげの大銀杏を結
うことが許される等)する「等」
次場所への準備がいろいろと必
要なためである。

力士の各階級の定員は、前頭
以上の幕内力士四〇人、十両二
六人、幕下二二〇人、三段目二
〇〇人、序二段二〇人前後(場
所によって若干違う)、序ノ口七
〇人前後(場所毎の入門者数等
によって変動する)であるが、
前回(五十五回)の「公傷制度
廃止」で述べたように、平成十
六年一月場所から幕内と十両が
夫々東、西一人ずつ増えるので
幕内四一人、十両一八人となる。

アフガニスタン 国際戦犯民衆法廷

11月に高知城ホールで「もう
戦争犯罪は許さない」と題する講
演をきいた。その際、講師の前田明
氏から、東京で「民衆法廷」が開
かれることをきき、私用をかねて
上京した。

判事団・検事団には日本人のほ
か米・英・独・印など外国の弁護
士・法学部教授も参加し、アフガ
ニスタンから証人も呼んでの模擬
裁判である。

“人の命”を虫けらのように踏み
にじる超大国とその追随国の権力
者を、民衆が裁き罰することは現
実にはできなくとも、このよう
な運動の中でその罪を明らかにし、
地球規模の世論を巻き起こすこ
とが、その息の根を止める大きな手
段だと実感できた。

来年は「イラク国際戦犯民衆法
廷」が開かれる。
*2月1日(日)
大阪・中ノ島中央公会堂

*3月14日(日)
東京・芝公園abcホール
で、そのための公聴会があるので、
都合のつく方はぜひ参加してみ
てほしい。(小島)

問い合わせ先
各実行委員会
*06-6693015206
*03-326710114 (夜間)



渡し込み
寄り合っているとき、相手の膝が大腿部の後方をかかえ込んで、一方の差し手を伸ばすか体を突きつけて倒す技。

幕内力士の中で横綱、大関、
関脇、小結は夫々東、西に一人
ずついるのがすっきりした形で
あるが、続けて好成绩を挙げる
力士がいると昇進させないわけ
にはいかない。従って或る階級
が三名又は四名になることがあ
る。

一方、横綱が引退しても、大
関陣に好成绩を続ける力士がい
なければ、横綱に昇進させるこ
とはできない。この場合は一人
横綱(平成十五年十一月場所中
に武蔵丸が引退したので、翌一
月場所は朝青龍が一人横綱)と
なる。場合によっては横綱不在
ということもおこり得る(つづ
く)。

俳句

10月4日(土)

澤村百草園(素十)

合田青幹

師の一語一語を憶ふ素十の忌

大玻璃を開けて秋風ほしいまま

萩少し刈られて惜しき素十の忌

棒立ちとなりて終りぬ曼珠沙華

吉本伸秋

一輪は返り花かや木瓜の紅

はつと振り向けば師在さず秋の風

中内英明

門川に市立つ日なり素十の忌

何も彼もさつぱり刈られ庭の秋

中内みち代

藤袴蕾の頭を愛でられし

藤袴貴船菊咲き庵王恋ふ

小笠原さちを

神饌は皆翌季の稔り金風忌

柿熟るる庵の歳月たちまちに

11月8日(土) 南国市十市

石土池・禅師峰寺

大蓮布袋焚の中に枯る

空青し十一月の土佐日和

山門の風に一札秋暹路

紅葉の日毎色増し日毎散る

吉本伸秋

冬の蝶光となりて湖渡る

欄に落葉柄を立てて降りにけり

中内英明

退院の人も鴨見に石路を見に

今日よりは遍路の行も冬に入る

中内みち代

峰寺へ一歩一歩や木の実踏み

ブラックバス釣る四五艘や沼小春

小笠原さちを

日の射して萍紅葉広がりし

亀動く未枯れ初めし水際かな